

Sibelius 2 (8)

教育的効果

Sibelius2のユーザーも最近ではかなり私の周りに増えてきました。その大部分が音楽や音楽教育を職業とする人ですが、学生たちも少しずつですが増えてきて、以前から別のソフトを使っていた人でも、明らかにSibelius2の方が使いやすいと言います。私のように曲を書いたり作曲や編曲を生業としていない者でも、ちょっとした楽譜を書いたりするだけの「サンデードライバー状態」で、いつも不慣れな状況でも数分で回復するのは助かります。考えてみればワープロソフトでも、私の場合、1980年代にはワープロ専用機で「親指シフト」をマスターし、90年代からは、コンピュータ・アプリケーションで「ローマ字変換」に移行したわけですが、勿論今でも親指シフトは指が記憶していますが、多分もう使わないでしょう。

同じように、楽譜ソフトも入力や編集のシステムにやたらと訓練や学習の必要なシステムから共通の同じ操作で入力できるのが流れのようです。

現代はコンピュータやインターネットが自然に「空気のように」私たちを包んでいます。停電や電池切れになるとコミュニケーションのみならず生活のシステムまでが全部ストップします。95年の1月17日、私の家を襲った阪神大震災はその日が給料日だった銀行振り込みの私の給料を引き出せなくしてしまい、携帯電話はその日のうちに電池切れになり停電では充電もできなくなりました。大都会に住みながら孤島に住んでいるような状態でした。

プロトコルというカタカナはコンピュータが普及するとともに当たり前の言葉になりつつあります。しかし、「規格」を意味するこの外来語は規格の統一と共に常識になり、間もなく死語になるに違いありません。その意味でコンピュータを取り巻くさまざまなプロトコルがまだ複雑過ぎると思います。早い話が家内の携帯電話の操作は、違う機種を常時使用している私にはできません。ただ、ボタンの位置が違っただけなら探せばわかるのですが、デザインの問題ではなく機能やコンセプトの違う機種ではどうしようもありません。また、TVやDVD、などそれぞれに付いてくるリモコンも最近では1台のリモコンでまとめて操作できる方向になりつつあります。これは同じ操作なら赤外線の手信号の波長を切り替えるだけのことでありというプロトコルのおかげです。同様に、現状ではSibelius2と他のソフトの間には機能上ではほとんど差はありませんが、応用問題の解決能力やコンセプトでは少し進化の差を感じます。

その進化のひとつに「教育的効果」があります。例えば、

ある旋律を書き込んで、ある楽器を指定しますと、Sibelius2ではその楽器では演奏が困難な音域や演奏不可能な音を着色して教えてくれます。イングリッシュホルンが移調楽器だと知らなくても、ある旋律にイングリッシュホルンを指定すると自動的に調号が書き換わります。金管楽器や弦楽器の運指もプラグインを利用すれば適切なものを付加できるような「インストラクター効果」や、【常に根音を分析して探す】というオプションを選択していると、【根音分析のオプション】で指定されているさまざまな方法を使って根音を「推測」しようとしています。この場合Sibelius2は作曲者の心を読み取ってまで絶対正しい根音を決定しません。このことはコードに含まれる音符はすべて可能性としては根音でありながら、最終的には操作する人間の感性を最終決定手段とする教育的システムであると考えられます。このような「人間の感性を試し育てる」ような教育効果もあります。

これらの教育効果の中で私が最も高く評価すると共にこれをもっと知って欲しいと願っているものに【主音のドレミファを追加】という機能があります。よく初心者がピアノの楽譜の音符に書き込むあのドレミファみたいなものですが、彼らの殆どは「固定ド」で書くのと違ってこのプラグインではなんと「移動ド」で書くのです。

日本の音楽教育を害する最大の敵は「固定ド教育」ですから、これを打破する武器にはなるでしょう。1840年代にジョン・カーウェン(英)が提唱し、20世紀に入ってコダーイのシステムの核となった階名唱法(ソルミゼーション)は日本の音楽教育の原則のはずなのですが、何故か視唱は「無精読み」である「固定ド」が蔓延しています。ジョン・カーウェンは「The Standard Course of Lesson on the Tonic Sol-fa Method of Teaching to Sing」という著書で、そのメソッドを披露していますが、このSibelius2のプラグインではドレミの名称をd,r,m,f,s,l,tと省略した形で表します。ただ、短調に関しては「平行調」として扱われ「同主調」の選択肢が無いのが残念です。臨時記号の＃は"e"を♭は"a(発音はオー)"を付け例えば、ミのフラットは"mo"でドのシャープは"de"になりますが、幹音はすべてd,m,sのように一文字です。

最後に、現在私自身がもっとも重宝しているSibelius2の使い方は、MIDIファイルをチェックするのに用いるという方法です。その優れた演奏再生能力と簡単な編集機能を使えばかなりMIDIデータのチェックは楽になります。ただしいっぱい出てくる休符を見づらいといってクリーニング(簡単にできる)してしまわないように気を付けましょう。